

西野浄水場を 海外研修生が視察



▲西野浄水場で水道部職員の説明を受ける海外からの研修生

市水道部は先月3日、西野浄水場（西野五丁目）に国際協力機構関西国際センター（JICA関西）の研修生を受け入れました。西野浄水場では、薬品を使わず、自然の力で味の良い水を作ることができ、緩速ろ過方式を採用しており、数ある浄水場の中から研修先に選ばれました。

研修は、開発途上国の技術者に日本の技術を学び、自国に持ち帰ってもらう目的で実施されています。エチオピアやタジキスタンなど13カ国から14人が参加し、西野浄水場で水質の浄化や維持・管理の技術を学びました。

研修生は、細かな砂の層に1日4～5mのゆつくりとした速さで水を通す緩速ろ過池などの施設を見学。「ゆつ

り流すと砂層にいる微生物の分解作用で、薬品を使わなくても、水の中の浮遊物などを取り除くことができる」となどと、職員から説明を受けました。

ラオスの水道局で働くシサモン・コンマニーさんは、「ラオスの浄水場も緩速ろ過方式を採用しているが、三原の水道水は澄んでいる。学んだ技術を参考にしたい」と話しました。

水道部管理課

☎0848・642229

高齢者の見守りで 協力体制を構築

市と三原警察署、三原市民生委員児童委員連合協議会、三原市社会福祉協議会の4団体は7月28日、高齢者の見守りに関する協定を結びました。

高齢者が住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう、各団体が連携して地域全体で高齢者を見守る「三原市高齢者安全・安心ネットワーク」を設置します。生活の支援が必要な高齢者の早期発見、高齢者が虐待や詐欺、交通事故などに巻き込まれるのを防ぐため、互いが持っている情報を共有し、協力して防止に努めます。

天満祥典市長、三原警察署の奥田右文署長、市民生委員児童委員連合協議会の大林光夫会長、市社会福祉協議会

の真嶋智会長が協定書に署名。天満市長は「見守りや支援が必要な高齢者が増えており、より重層的な仕組み作りが必要」と話しました。

ネットワークの事務局は三原警察署内に設置し、今後、具体的な連携のあり方を検討していきます。



▲4団体が協力して高齢者を見守る体制をつくります

高齢者福祉課

☎0848・676055

交流20年目を迎えた 中学生の海外研修

市のシンガポールとの少年少女海外研修交流事業が、今年度で20回の節目を迎えました。市内の中学2年生を対象とした同事業では、過去20年間で市から253人、シンガポールから174人の生徒が参加しました。

先月20日には、約1週間の派遣研修

を終えた中学生14人が、市役所で成果を報告。交流するバレスティアヒル中学校への訪問やホームステイの感想などをスピーチしました。参加した大和中学校2年の和佐彩花さんは、「海外に行って日本と外国の文化や歴史の違いを理解できた」と述べました。

事業は、国際性豊かな人材を育てることを目的に、平成8年に開始。当初は市からの派遣だけでしたが、平成13年からはシンガポールからの訪日研修を受け入れ、相互交流事業として続いています。

今年5月にバレスティアヒル中学校の生徒が市を訪れた際は、交流20回記念式典を開催し、過去の研修生らとも交流を深めました。



▲シンガポールでの海外研修の成果を報告する市内の中学2年生

生涯学習課

☎0848・6421137